

令和4年(2022年)4月22日(金曜日)

ミシマバイカモ 見頃に

豊富な水量早くも満開

県の絶滅危惧種にも指定されているミシマバイカモが、三島市の群生地「三島梅花藻の里」で見頃を迎えている。管理するNPO法人グラウンドワーク(GW)三島によると、市内を流れる湧き水が豊富な今年は例年よりも2カ月ほど早く満開となっているという。

三島の群生地



見頃を迎えたミシマバイカモ

三島市の三島梅花藻の里

ミシマバイカモは清らかな湧水が育む水中花で、梅のようなかれんな花を咲かせる。例年は川の水位が高まる6月ごろに満開となるが、今年は春先の雨と冬に降り積もった富士山の豊富な雪により水量が例年よりも多いという。源兵衛川や御殿川などでもこれからミシマバイカモが次々と咲き始め、9月ごろまで見頃が続く見通し。

GW三島の渡辺豊博専務理事によると、ミシマバイカモの生育には水の量、温度、質のいずれも欠かせず、咲き具合は「清流のバロメーター」という。いち早く咲き始めたミシマバイカモに「今年もきれいな水が流れている。見頃の期間が例年よりも多くなりそう」と語る。

(三島支局・金野真仁)